

放課後学習支援者のための学校理解講座

検証実施機関（団体）：公益財団法人浜松国際交流協会
浜松市外国人学習支援センター 企画担当者 内山夕輝

1 検証対象の研修・授業について（該当するものにチェックを入れてください。）

養成／研修	<input type="checkbox"/> 養成 <input checked="" type="checkbox"/> 研修
タイプ	<input type="checkbox"/> 基礎教育 <input type="checkbox"/> 専門教育 <input checked="" type="checkbox"/> 支援員教育
研修・授業日（期間）	2018年12月25日
総時間数	1.5時間（1.5時間×1回）
研修・授業科目名	放課後学習支援者のための学校理解講座
受講者	人数（19人） 年齢層：30～70歳代 外国人児童生徒等支援の経験：有 日本語指導（成人対象を含む）の経験：問わない

2 地域及び学校現場の外国人児童生徒等の受け入れの状況

（1）当該自治体における外国人児童生徒等の数・分布とその民族背景
公立小学校に在籍する外国籍児童数 1,186人／市全体の公立小学校在籍数 43,068人
公立中学校に在籍する外国籍生徒数 541人／市全体の公立中学校在籍数 20,269人
ブラジル 48.6%、フィリピン 17.0%、ペルー 11.2%、ベトナム 9.4%、中国 6.5%

外国人児童生徒在籍分布

在籍校数 122校/146校（分校2校を含む）

南米系外国人学校（小学部）在籍児童数 132人／市内3校

南米系外国人学校（中学部）在籍生徒数 105人／市内3校

（2）当該自治体における外国人児童生徒等の受け入れ・指導体制

浜松市教育委員会教育総合支援センター外国人支援グループを中心とした受け入れ体制が取られている。

- ・学校への支援者の配置・派遣
- ・ライフコースを見据えた支援
 - ① 相談員による就学ガイダンス
 - ② 入学準備ガイダンス
 - ③ 進路について語る会
 - ④ ロールモデルとの出会い
 - ⑤ ステップアップクラス
- ・初期適応・母国語支援業務委託
- ・日本語・学習支援業務委託
- ・浜松市外国人子供支援協議会

・教員の資質向上を目指した研修会 等

(3) 外国人児童生徒等教育に関わる教員（一般教員を含む）、支援員の教育力の課題
市内における放課後支援は、5つのボランティア団体が、5つの小学校で（外国につながる子供が多く在籍する学校）担っている。それぞれの団体は独立して活動を行っていたが、当協会にボランティアを紹介してほしいとの声があったことから、当協会が行なっている日本語ボランティア養成講座修了生をマッチングするようになり、それ以来、年に一度ネットワーク会議を行い情報交換をするようになった。

ネットワーク会議では、担当教員とのコミュニケーション不足や学校側による役割分担の不明瞭さが課題としてあげられることがしばしばある。外部のボランティアとして、立場や立場に応じた役割が見出せなかったり、活動（宿題を見守ること）が評価されにくかったりすることが原因と言えるだろう。

一方、各団体は市や学校からの委託業務ではなく、ボランティアで行っているため、支援員の確保や調整、スキルアップをする機会の創出を組織的に行う難しさを抱えている。ボランティアをまとめ、学校との間に入るコーディネーター的な役割をする人物や機能が必要であると考えられる。

3 研修・授業の成果について

(1) (受講者アンケートより)

①受講者の研修への期待（アンケートのⅠより）

- ・ボランティアによる支援は学校現場から必要とされているか
- ・外国人児童に対する教育行政や今後の方向性
- ・子供との接し方や見守り方の確認
- ・算数支援の方法、漢字支援の方法
- ・小学校教員との接し方
- ・勉強に興味のない子供への接し方（指導方法）

等を知りたいという回答が集まった。

②受講者の研修内容の理解度・満足度（アンケートのⅢ①より）

ほぼ一致3人(15.8%)、だいたい一致15人(78.9%)、無回答1人(5.3%)

研修内容が受講者の期待度とだいたい一致していた。ニーズに対応することができたと思う。

③関心を高め、教育力の向上を促したと考えられる内容・活動（受講者アンケートⅢ②の回答より）

宿題のポイントについて（学習参加のための支援）と教育行政について（教育委員会の事業理解）が、特に受講者のニーズにあっていた内容だと考えられる。放課後学習支援では、宿題の見守りが中心となるが、子供たちが本読みや書き取りに意欲的に取り組めるような声掛けのコツを学ぶことができ、今後実践したいという回答が多く寄せられた。

④受講者が今後に望む研修・授業の内容と活動（受講者アンケートⅣより）

具体的な支援方法のコツを知りたいという声が多い中、他団体とのディスカッションをしたいや、子供の文化的・宗教的背景をふまえた対応方法を知りたいなどの意見もあった。また定期的にこのような講座を受けたいという声もあった。本研修の直後に団体代表

者らによるネットワーク会議を行ったが、団体内で勉強会が実施できているという回答はなく、他団体の様子を知る機会もないとの声があったので、講座と情報交換会をセットとした機会を作っていきたい。

(2) 研修企画の立場から見た、研修の成果と課題（企画者アンケートⅢの回答より）

浜松市内で行われている放課後学習支援は、100%ボランティアによる自主活動である。活動の経緯は様々ではあるが、共通の悩みとして相談に上がるのが、学校との関係づくりである。そのため、本研修では、現在の教育行政や学校組織をまずは理解することを中心に組み立てた。講師の説明は資料も豊富で大変分かりやすかったが、時間配分に対して情報量が多かったため、チーム学校という考え方まで十分に伝えきれなかったかもしれない。

また、ボランティアから宿題を見るだけで良いのか、自分たちが必要とされているのかという相談もあるため、講師に宿題のポイントを実践していただき放課後学習支援の重要性を伝えた。この活動はとても反応が良く、積極的に取り組む姿が見られた。

その他、市内5つの団体から受講者が集まったため、グループワークを取り入れ、それぞれの活動状況を共有する時間を最初と最後に入れたところ、想定以上に盛り上がっていた。活動の評価が見えにくいという声もある中、他団体の取組を参考にしたり、自分たちの活動を振り返ったりする良い機会になったと思う。

今回の研修では、上記を90分で行ったため、時間とボリュームのバランスが悪かったように思う。今後は、それぞれの講義や活動にもう少し時間をかけて丁寧に行いたい。

4. モデルプログラムについて

(1) 養成・研修内容構成（報告書 pp. 72-76）について（意見）

- ・追加が必要な項目はないか。
- ・項目の構成（配置・カテゴリー化）は適当か
- ・項目の数や具体性は適当か。

今回は放課後学習支援員（ボランティア）を対象とした研修を行なったが、宿題を見るということであっても、教員の指導方法や、最近の指導要領（時代とともに変わる）を一部でも知っておいた方が良いのではないかという声があった。ボランティアが指導を実践するためではなく、教員と足並みを揃え、子供を混乱させないようにという思いからである。本研修では②¹在籍学級での支援<基礎・専門>の一部を講師に実践していただいたが、部分的には<支援員>にも汎用できる内容だと思った。

また、領域の、外国人児童生徒等に関する社会的・制度的または経営的内容のうち、③⑤⑧の内容に関しては、<支援員>が学んでも良い内容だと思う。放課後学習支援員であっても、子供達に関わる国、学校、保護者の動きを知ることによって背景理解につながり、より良い関係性の構築が期待される。

(2) モデルプログラム（報告書 pp. 207-244）について（意見）

- ・90分程度のモチーフ型のプログラムは、選択・組み合わせがしやすかったか。
- ・モデルプログラムは実施カリキュラム作成時に、参考になったか。
- ・講義・活動・フィールドのバリエーションは、活動を考える上で役立ったか。

具体例が豊富なため、カリキュラム作成に非常に役に立った。また、内容の一部を組み

合わせて行う際に、時間の目安が役に立った。

(3) モデルプログラムの活用で研修の運営が円滑になったか。

- ・現場の課題と研修内容を関連付け、受講者に目的を伝えやすくなったか。
- ・企画者と講師間で研修運営についての考えを共有しやすくなったか。
- ・複数回の研修の場合には、各回の関連付けがしやすくなったか。

本研修の講師が協力者会議にも参加されていた先生だったので、研修内容や到達目標などの意思疎通が容易にできた。

(4) モデルプログラムの活用を通して、研修・養成で、どのような力を高めてほしいか。あるいは、高めるためには、どのような活用の仕方が必要だと思うか。

実践者のスキルアップを行うには、現場の課題を拾い、その課題を解決するための力を養成する研修が必要である。そのためには、モデルプログラムを活用した研修を企画する企画者向けの研修も必要だと思う。今回、アドバイザーの先生方に意見をいただきながらモデルプログラムの活用方法を知ることができたことが、充実した研修につながったと思う。